

## 第3回 実践検討会

令和4年11月17日

○実施園 奈良市立保育園 1歳児

○指導助言 養成大学スーパーバイザー



### カンファレンスを進行した幼児教育アドバイザーの自己分析

**【研究主題】** 「やりたい」「やってみよう」と思える主体性への一歩  
～ワクワクできる遊びの環境や援助のあり方を探る～

#### **【1歳児たんぽぽぐみ 活動のねらい】**

- ・ 戸外で保育者と一緒に体を動かしたり見守られながら一人遊びをしたりする。
- ・ 自我の芽生えを大切にして、一人一人の生理的欲求や甘えを受け止め、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。

#### **【見てもらいたい視点】**

- ・ 1歳児の発達に沿ったワクワクできる遊びの環境や援助について

#### **【反省評価】**

- ・ 第3回目の実践検討会のカンファレンスの進行役をさせていただくにあたり、自らが参加した過去2回のカンファレンスを振り返り、各回の評価、または反省点や課題等を再確認して準備をして臨んだ。当日の視点をしっかりと定め、参加者の意見を引き出していく中で、話し合いの焦点がブレないように意識して進めた。

また先生方の意見から、当日の視点についてさらに深められるよう、方向性を定め、問いかけをすることや、一つの意見からさらに深い見取りや掘り下げた話ができるようにすることなど踏まえ、その場の雰囲気も感じながら、丁寧に進めていくよう心掛けた。その結果、今回は、参加者それぞれが、個々の意見、考えを積極的に話して頂き、焦点を絞って話し合えたことは、評価につな

がると実感した。

また、第1回目のご指導により、途中経過として記録の確認をした方が話の整理ができてよいというアドバイスを活かし、今回は途中、参加者全員で記録を確認し、カンファレンスの経過も共有しながら進められた。記録の先生との連携もしながら、参加者が意見を出しやすい雰囲気作りができたことは良かった点である。しかし、そこに至るまでに自分自身が、話のきっかけを作るべく話し始めたが、結果、自分が一番多く話をしているような状況になってしまったことは、他の参加者の意見を引き出すことにもう少し徹することが出来ればよかったと課題が残る。次回、カンファレンスを進める時は、今回の課題を意識しながら取り組みたい。

### 【今後の活用】

まずは、自園での研修時にカンファレンスを実際に行い、経験したことを活かしていきたい。また、その中で、今回の課題としたことも意識しながら取り組み、自分自身が参加者の意見をしっかりと拾い、そこから焦点を絞って、より深い見取りや、一つの視点を掘り下げて考えられるような司会進行役が務められるようになっていたいと思う。そのためにも、自分自身が、保育教育の情報を収集することが大事であると感じる。自園の子どもたちの姿から学びや気づきを保育者間でしっかりと見取り、共有し、そこから明日へとつながるヒントを助言できるよう自分自身の力をつけていきたいと考える。

### カンファレンスを通しての学び、気づき（こどもの姿の捉え方、協議内容について）

- ・公開保育の中で小さな違和感を感じたことを見過ごすことなく、そこからこれはどうなの？その理由は？と読み解いていくことで、話しに深みが生まれ、最終的に子どもの発達に則した話し合いに繋がっていくことを学んだ。
- ・一つの事象に対しても、素敵と捉えたり、違和感を感じたりと保育者も捉え方が違って当たり前。それぞれの意見を否定せず、そこから多面的にとらえることで、子どもの発達や思い、学びが見えて来ると感じた。
- ・子どもの遊びの様子と共に、違和感を感じたところを主にカンファレンスを進められていた。あまりにも自分が見ていたところと違い、はじめは話に入りにくく感じたが、進行役の先生が自分の意見を述べたり、周りに質問をしたり考えを引き出したりされたことで、カンファレンスを活発に進められていた。子どもの発達の面からの人との関わりや物との関わりを捉え、話げできた。
- ・1歳児の子ども達の「ワクワクしている瞬間」「やりたいやってみようの瞬間」を捉えた時、そこには仕草や表情、簡単な発語など、とても小さくそして一瞬の出来事であることが多く、そばにいる保育者が読み取り、子どもの動きや表情に合わせた声がけ（言葉掛け）の重要性を改めて学んだ。
- ・他児との関わりの芽生えである時期でもあるので、真似ること、保育者や他児

と楽しさの共有、楽しさの積み重ねにより、他児への関心に繋がる様子も子ども達から学んだ。

#### 今後現場でどのように活かしていくか

- ・公開して下さったクラスや保育者に対して、批判と捉えられないように「おみやげ」として『明日に繋がる保育』に活かされるものを最後、カンファレンスで引き出していきたい。また、学年にもよると思うが、子どものこの場面からどんな学びがあったか等のすすめ方も討議していけるカンファレンスを持ちたい。
- ・保育環境（人的・物的）の大切さを伝えていく。子どもの成長、発達を保育者が十分捉え、丁寧に関わっていけるようにする。
- ・一つの場面を捉えて、子どもの思い、視線、動きなどの姿を深くとらえていくカンファレンスをしていきたい。漠然と「子どもを見る（視る）」のではなく、深く捉えることで、必要な環境構成や保育者の関わりに繋げていきたい。

#### 講評より学んだこと

- ・焦点を絞って、発言しやすいようにしたこと。また、柔軟に項目追加もして対応したことが良かったと言ってもらえたり、1歳児は心身一体の時、その子ども理解が具体的な場面で語られていたことも褒めていただき、自分達の自信と更なる学びになった。
- ・名もない遊びの中にも子どもの学びがあり、そこを大切にする人的環境が大事。
- ・進行の先生が違和感を感じたところをつきつめて話をしたこと、その違和感をみんなに投げかけ話をしたこと、はじめに設定した3つの遊び以外にも視点を変えて柔軟に話ができたと等、進行を含めカンファレンスそのものを褒めていただいた。自分の中では不安な面があったので、違和感を突き詰めて話し合うことの大切さを実感した。
- ・一つの場面を捉えて、共感できること、違和感があるところなど、正解を決めたり否定したりするのではなく、自分だったらと「問い」をつくることで、職員間で見つめていくことができる。
- ・乳児期では、言葉に現れないこと・心の動きが体の動きとして表出している。保育者がしっかりととらえていきたい。

#### グループで検討した協議方法について良かった点や反省点

- ・写真を用いながらのカンファレンスは、少人数であったので、より効果的に共有しながら話し合うことができた。司会者が、しっかりと話の視点をもち進めて下さり、深い話ができたとと思う。  
写真については、見る遊びが違う場合もあるので、数台活用しながら、発言者が伝えたい場面を撮る方法も試してみてもどうかと感じた。
- ・公開保育をして下さった園に、明日からの保育に活かせるお土産を毎回意識することは、園内の公開保育等においてもとても有効であると思う。

1歳児 たんぽぽ組 11月 17日 (木)		
研究主題	「やりたい」「やってみよう」と思える主体性への一歩 ～ワクワクできる遊びの環境や援助のあり方を探る～	
	○ 明日に繋がるヒント・・・1歳児の発達に沿った環境や援助についてのアドバイス	
記録用紙		
遊び	ワクワクしている瞬間	やりたい、やってみようの瞬間

本日の保育のねらい

- ◎ 戸外で保育者と一緒に体を動かしたり見守られたりしながら一人遊びをしたりする。
- ◎ 自我の芽生えを大切に、一人一人の生理欲求や甘えを受け止め、自分の気持ちを受容して表すことができるようにする。

研究主題  
「やりたい」「やってみよう」と思える主体性への一歩  
～ワクワクできる遊びの環境や援助のあり方を探る～

ワクワクしている瞬間

保育者の動き・言葉

やりたいやってみようの瞬間

**砂場**

砂遊び・じわじわ...とのぼるみる、やっほーP・真似る  
砂の中に何を見える? → つかってみる → つかむ  
砂遊びやつかむ・スコープで崩壊して楽しむ  
砂遊びで大きいスコープでつかむ。つかむ

**転がし遊び (ドングリ拾い)**

ドングリの途中で止まってしまう → 手のスナップを使って  
ドングリを転がす遊びに似ている  
バケツの中にドングリを入れて転がし返すことを楽しむ  
(中身がある → なくになる) 小さいカンプ等  
ドングリの転がしやクレーンの中に落ちる音を楽しむ

**電車ごっこ**

フープを友だちにおぶせたり「どうぞ、他児ののりかき」

**トランプリン**

跳ぶことに楽しむ、友達に真似る、ニコッ(楽しい共有)  
揺れるを楽しむ (立っば、回っば、わっば) 「名前ない遊び」  
友だちと一緒に... 楽しい経験が... 積み重ねる → 友だち (友達)

**運動遊び**

「ごまごまごまご」リズムを楽しむ、体の動き (進み、止まり、走る) 繰り返す楽しむこと、もう一回!

1歳児の発達に沿った環境や援助についてのアドバイス

保育者の動き・声のトーンの影響

- ★ 遊びのエンゲージにはなる
- しかし、遊びを止めてしまうこともある
- ★ 言葉の量 (99%以上... 少ない)

様々な道具・用具の豊富さ

- ★ 容器 (大きい・数)
- ★ 道具等を使う時の手指の動き (手首の動き等)
- ⇒ 生活に繋がる (着脱 食事)